

仏教壮年会ってなに？

- 1 仏教壮年会を略して「仏壮」と呼んでいます。社会・職場・家庭で必死に生きている世代がメンバーです。弱音を吐くことができない。涙を見せることができない。心からくつろげる場が見つからない。そんな世代の者が世間の肩書を外した人間関係の中で安心して本音で話し合おうとする場。それが「仏壮」です。きっとあなたの「本当の居場所」となることでしょう。
- 2 仏教壮年会活動は、私たちがつくっていくものです。お互いが“やりたい”と考えたことが次の活動に繋がっていきます。
- 3 仏教壮年会に参加するのに、年齢制限などはなく誰でも入れます。
- 4 寺院でつくる仏教壮年会を「(例)〇〇寺仏教壮年会(寺院仏壮)」と言います。組で組織するのを「〇〇組仏教壮年会連盟」、教区で組織するものを「〇〇教区仏教壮年会連盟」、全国で組織するものを「浄土真宗本願寺派仏教壮年会連盟」と称しています。
- 5 1寺院仏壮にかかる浄土真宗本願寺派仏教壮年会連盟に対する年会費は、3,000円となっています〔2019年4月現在〕。年会費は、全国における仏教壮年会活動の充実発展に使用させていただきます。尚、教区連盟・組連盟に対する会費などは各教区・組連盟で決められていますので、ご確認ください。
- 6 仏教壮年会をどうやってつくるか、との質問をいただきますが、地域・寺院事情によって異なる面があります。一般的には、ご住職からご門徒に声をかけていただき、会の発足について考案されるのが良いでしょう。しかし、逆に、意欲あるご門徒からご住職に会の発足を相談することも大切なことでしょう。声をかけられた方は、「忙しい…」「もう少し後になってから…」と言った反応があるかも知れません。最初は、懇親会を交えた会合などを持って、気楽な気持ちで参加し、交流の輪を広めることから始めてみては如何でしょうか。
- 7 ご賛同いただけましたら、「加盟登録申請書」に記載し、住職、組長の署名・押印の上、教務所に提出します。一方、仏教壮年会会員になる人の勧誘も行いましょう。加盟登録申請書は、ホームページからもダウンロードいただけます。

〔発行〕 浄土真宗本願寺派 仏教壮年会連盟

〒600-8501 京都市下京区堀川通花屋町下ル 浄土真宗本願寺派 寺院活動支援部＜組織教化担当＞内
TEL:075-371-5181(代) FAX:075-351-1211
<http://www.hongwanjibussou.jp/>

2019.3 5000

仏教壮年会をつくろう

壮年に聞法と語り合える場を！
お寺の活性化のために始めてみませんか？



事例から学ぼう

組仏教壮年会の結成と活動現況 ～組仏壮から寺院仏壮へ～

■ 東北教区 秋田組の活動報告

平成23年の宗祖大遠忌に向けての取り組みとして、秋田組では壮年研修会の実施と組をあげての壮年会活動の活性化の二つを目標に掲げていました。当時、寺院仏壮は組内にわずかに一ヶ寺で、しかも活動休止状態であったため、当該寺院からも組全体で仏壮活動を展開してほしいとの要請がありました。折しも、仏教壮年会連盟の規約が変わり、組単位での壮年会が容認され、秋田組仏教壮年会の結成が現実味を帯びてきました。

秋田組では、仏壮活動について何の情報も持ち合わせていない状況でしたので、平成21年12月に東北教区宮城組の専能寺仏壮会員を組内寺院にお招きし、組内仏壮有志と情報交換の場を持ちました。専能寺仏壮とはそれ以降も交流が続いています。

2年間の準備期間を経て、平成23年11月26日に27名の会員で組仏教壮年会の設立総会にこぎ着け、現在は44名(組内24ヶ寺中13ヶ寺から所属)で活動しています。春は組仏壮の総会、夏

は教区連盟総会&研修会、秋は連盟・連区研修会、冬は組研修会への参加を主な活動に据えています。また、平成29年9月に仙台で開催の全国仏教壮年東北大会には28名が参加しました。

そうした中、まだ一ヶ寺ですが、年6回の仏壮例会を始めた寺院もあり、組仏壮から寺院仏壮へ活動が広がることにより、一層充実した活動が期待されます。

東北教区秋田組実践運動委員会
壮年会部門長 筑波 義厚



専能寺仏壮との交流会

仏壮発会までの流れ〈基本例〉

願いをもとう

み教えを通して自分を見つめる仲間を集めよう。

呼びかけましょう

きっとあなたの願いは通じます。勇気を持って呼びかけましょう。

準備会を重ねましょう

目的を明確にして、仲間の輪を広げよう。

さあ、発会です

仲間が集うことの喜びをもって、無理をせず、できることから取り組みましょう。

継続が大事です

み教えを中心にするのを忘れず、みんなで知恵を出しあい、活動を続けよう。常に新しい仲間を誘うことも心がけましょう。

仏壮発会のアドバイス

呼びかけのコツ

- *お寺の行事や法要などをきっかけとして、誘ってみることもできます。
- *電話、手紙、葉書、チラシで誘ってみることも一つの方法です。
- *仏婦会員の家庭の方、子ども会やキッズサンガ行事等の経験者に呼びかけるのも有効では？
- *総代や門徒推進員などの方に呼びかけ、理解と協力を得ることも大切です。
- *聞法に熱心な方、学ぶ意欲のある方にも積極的に声をかけてみましょう。
- *いろいろな年代や悩みを抱えておられる方にも、ぜひお声をかけを！

準備会を開きましょう

- *「こんにちは」「ようこそ!」の一言が、集まった人達を安心させます。
- *できるだけ早く参加者の名前を覚えることもコミュニケーションを深めるポイントです。
- *会合を重ね、人の輪を広げながら、目的を明確にして賛同者を募りましょう。
- *賛同者の方と一緒に寺院の法要や行事、組や教区の研修会や大会に参加してみることで発足に向けた機運が高まってくることもあります。
- *寺院だより、ポスター、チラシなどを積極的に活用しましょう。
- *既に仏壮のある寺院を訪ね、その在り方を学ぶのも良い方法です。
- *次の会合日を決めましょう。多忙な壮年層です。その場で次の段取りを決めましょう。
- *年間の行事や経費、役員の構成など会の運営に関することも十分に話し合う必要があります。

発会後の感想



～仏壮を作ってみたら～ (住職からの感想)

- ① 会員さんの悩みを聞こうとした私たちが、実は愚痴や悩みを聞いてもらっていました。
- ② 話し合い法座をしてみたら、ずいぶん様々な意見が出ました。
- ③ 本堂や境内地の美化が進みました。今まで私だけではできなかったことができました。
- ④ 法要、法座に男性の姿が増え、活気が出てきたような気がします。
- ⑤ 仕事を通じて専門の知識を持つ人がたくさんいます。その話を聞く会を催しましたら、好評でした。私も知らないことを、たくさん教えてもらいました。
- ⑥ 総代の方とは、また違った意見を聞くことができ、大変参考になりました。

～仏壮に入ってみたら～ (門信徒よりの感想)

- ① 数年前にこの地域に越してきたのですが、近所づきあいの中で何となく疎外感を持っていました。お寺に来るようになって、周囲と打ち解けることができました。
- ② 印刷会社に勤めております。お寺で勉強した日の良し悪しの迷信などについて、お客さんや社員たちとディスカッションしています。
- ③ 以前は迷信にこだわっていましたが、仏壮に入って話を聞くうちに気にならなくなりました。
- ④ 人間関係で悩んでいます。会で話してみたら、みんな聞いてくれました。解決したわけではありませんが、分かってくれる人がいてホッとしています。
- ⑤ お寺で「差別」について話を聞きました。自分が差別する側にいたことがショックでした。今、差別をなくすために何ができるかを考えています。